

6月30日

京都府連盟 無雪期搬出訓練報告 平尾 繁和

6月30日、京都府連盟の無雪期搬出訓練が天王山山麓で行われました。山友会からは、夏山・40周年記念登山トレーニングと日程が重なり5名（伊庭、河野、平松、藤村、平尾）が参加しました。安全登山への意識の高まりを反映して、全体で15登山134名（申込時157名）の参加でした。雨天の予報でしたが、雨天決行なので8時30分頃の広場公園に集まりました。9時から西山ハイキングクラブ担当の応急手当の実演がありました。4つのケースを見せてもらい14班に分れてそれぞれ実際にやってみました。途中から雨が激しくなってきましたが、そのあと搬出訓練に移り救助隊スタッフから①ネットとストック、②ストックとリュックを使った搬出訓練のデモがあり何名かが実際に負傷者役と担ぎ手になって体験をしました。早めの昼食後、午後の天王山へ登つての搬出訓練はとりやめとなり、4つのロープワーク（簡易ハーネス、エイトノット、インクノット、半インクノット）について班に別れ教えてもらいそれぞれ実際にやってみにつけました。12時30分、予定より4時間早く切り上げ解散しました。



訓練の内容の概略を紹介します。

<救急手当>

1 腕をけがで出血した場合の手当

- ・処置者は、まずビニール手袋をする
- ・出血箇所にガーゼ等をあて止血を行う ガーゼの上に指4本で圧迫し止血する
- ・水で泥等汚れを落とす（穴あきペットボトルの蓋） 水がなければ茶でも可
- ・布で水を拭き取り、傷テープを貼る サランラップは圧迫するので×

2 頭をケガし出血している場合

- ・ビニール手袋を付ける、ガーゼやハンカチをあて圧迫し止血
- ・水が顔に垂れないよう額に鉢巻をしてから、水で患部を洗う
- ・水を拭き取り鉢巻を外す
- ・頭にストッキングを被せ、顔面部はハサミ等で切り取り、ストッキングの先は頭の後ろで絞り縛る
- ・帽子をかぶせる

3 足首を捻挫した場合

- ・靴・靴下をぬぐ、足をリュックなどの上に置いて、足首を90度にそらし固定
- ・弾力のある包帯（エラスコップ）を巻く、（外から2回、8の字に巻いて固定、内側を巻くとき引き張り気味にして足を外に向ける、最後2巻き足首に巻く）
- ・テーピングテープで固定し、靴下・靴を履かす。

4 手首（親指）を骨折した場合

- ・1日分の新聞紙を4つ折りにし、肘と手首の2ヶ所の関節をまたぐように腕の下にあてる。
- ・肘からテーピングテープで上から廻し止める、締め付けてしまわぬよう下部（新聞紙側）ではテープをくっつけず隙間を開ける。手の甲、腕の中ほども同様にテープで固定
- ・レジ袋（持ち手のある少し大きめ50cm位までのもの）の持ち手の下の両脇を切る
- ・そこに腕を入れ、持ち手にタオル・三角巾等を繋ぎ首の後ろで縛る
- ・上腕の中ほどで三角巾や細引きで骨折した腕と身体を縛り固定する
紐など縛るものがない場合は、上衣のボタンの上の方を外し上衣の中に負傷した手を突っ込み下のボタンで支える（チャックも同様）

5 脱水症については、テキスト・パンフ参照

<搬出方法> 後日、京都労山救助隊事務局から下記資料が届いたので掲載します。

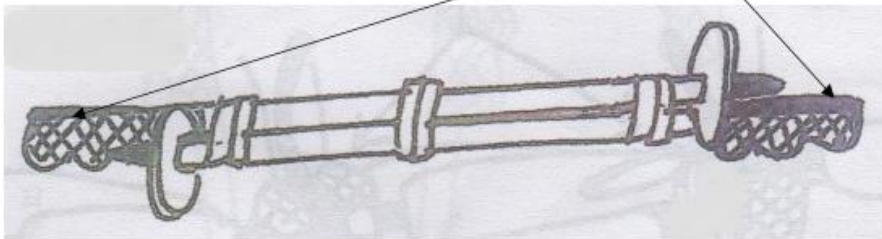
○ストックとリュックを使った背負い搬送

2019年6月20日作成

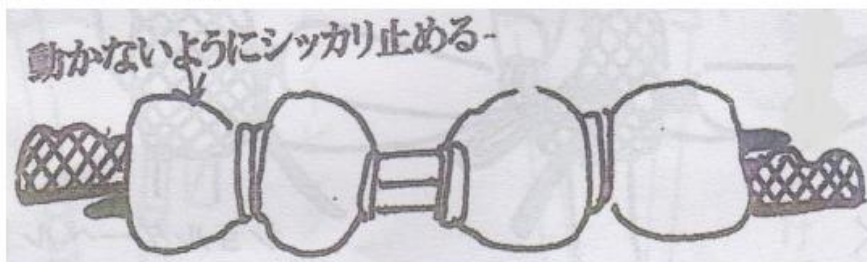
1. ストックを足掛けにしてザックでの搬出

装備を準備する物（40L位のザック1 ストック2 スリング（120cm）1 カラピナ1 雨具1 レジ袋2 テーピングテープ）

- ①ストック2本を互い違いに組み、長さ65～70cm位（掌で男3回半、女4回位）にし、テーピングテープでまとめる。持ち上げやすいようにグリップを外に出しておく。（テーピングは外しやすいように端を折り曲げておく。以下同じ）



- ②ストックの両脇に雨具を巻き付け、（訓練ではレジ袋をかぶせて）テーピングテープで止める（実際ではカッパに直接巻けばよい）。 ※交代の時に持ち手になるので、グリップ少し出す



③ザックの肩ひもを適度に伸ばす



④伸ばした肩ひもをザックの後ろに回しストックを差し込む



⑤事故者の背中に120cmのスリング（60cmの場合は2本連結）を交差させて両腕を通す

⑥スリングを事故者の胸前でしっかり結びカラビナをかけ、ストックの上に足をかけ、ザックの上のセンターストラップにカラビナをかけ座る

⑦ザックの両脇の補助者が、事故者が座っているストックの端を持ち上げる（その際、事故者は補助者の肩に手を置く）。事故者が重い時は他の者が補助する。

背負い者はザックを担ぐ（背負い者の前に1人補助者が立つ（背負い者は補助者の肩などに手を置きバランスをとる）

⑧背負い者が交替する際は、事故者が足掛けているストックを両脇の補助者が持ち、事故者を持ち上げている間に交替する。



120cmのスリングを背中側で交差する
（60cmなら2本連結）



体と密着するように短く結んでカラビナで止める

寝たままストックを跨がせてから起こす



登下降ではスリングや細引きで確保する ↓



背負い者と事故者をスリングでぐるっと回して確保用の輪を作る



○搬送ネットの紹介

2019年6月5日作成 6月20日訂正

3. ネットとストックを使つての搬出

準備物 (ネット (幅60cm 長さ180~200cm ストック4~6本)

①ネットを広げ、両側に各人がストックをくぐらせ持ち手を作る。

4人で運ぶときは4本、6人の時は6本を入れる。ストックの長さがネットの長さに合うように調整する。

背中が当たるところにザックを置いておくと、事故者の背中に網が食い込まない。枕になるようにカッパなどを置く。

②その上に事故者を横たえ、持ち上げて運ぶ。(背の高い組が頭側)

各人が1本ずつストックをもってリーダーが声をかけて、まず膝に乗せ、次に立ち上がる。打ち合わせておいて一気に立ち上がっても良い。全員肘を伸ばして持つと楽。降ろす時はリーダーが声をかけて頭に注意しながらソッと降ろす。頭の下や膝の下に雨具など枕やクッション代わりにするものを置くと楽になる。



ビニール袋を含めて 50g



プロテクターは外して
先端をテーピングテープ
で養生する

冬用リングは外す

軍手をはめてストックを持つこと



遭難捜索救助訓練



足元に 120cm テープを1本掛ける



頭の方に 120cm テープを2本掛ける